

児童発達支援事業に係る自己評価結果の公表

公表日 令和 4年 10月 14日

広島県立福山若草園 福山若草育成園

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価				改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	新型コロナウイルス感染症対応のため密にならないスペースが必要です。登園人数が多い日は活動内容によっては2班に分かれて行ったりもしている。	13				
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	職員の配置数については、6月から保育士1名の加配体制で行っている。リハビリスタッフは1名欠員となっている事と新型コロナウイルス感染症の流行で職員を入所部と分けているため、同じスタッフのリハビリにあたることが多い。	8	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のクラスは少人数なのでよいが、他のクラスに対しては少し少ない。 ・6月から職員が増えたので助けてもらい時に声をかけやすくなるのでありがたい。 ・リハビリ内容を充実させてほしい。いろんな療法士にあたって刺激があったほうが良い。マンネリ化しているので子供が少し退屈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用していただく人数を考慮しながら安心してご利用いただけるように職員を配置する。 ・引き続き、リハビリスタッフの職員募集を行い欠員を解消するとともにいただいたご意見をスタッフ間で共有しリハビリ内容を検討する。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	使いやすい空間、構造、設備を目指し、設計され、表示等で案内をしている。	12			1	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	毎日、清掃と消毒を実施している	12		1		<ul style="list-style-type: none"> ・朝1でもマットの上に髪の毛がよく落ちている。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価				改善目標	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない		
保護者への説明責任等	⑤ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	平成30年度から実施し、業務の改善を図っている					13人/20人（回収率65.0%）	
	⑥ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	平成30年度から実施し、ホームページで公開している						
	⑦ 第三者評価による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価による外部評価を行い、業務改善を図っている						
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	外部研修会への参加や園内の各種研修会に参加している						
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	半期に一度はアセスメントを行い、支援計画を作成している						
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントをしている	アセスメントツールを使用している						
⑪ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	支援内容は具体的に記入している							

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価					改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	13人/20人（回収率65.0%）	
保護者への説明責任等	⑫ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、保育士が専門性をもって分析したうえで、個別支援計画を作成している	11	1		1		
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	個別の支援計画については、意識して行うようにしている	11	1		1		
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	役割分担をし、チームで行っている						
	⑮ 活動プログラムが固定化しないように工夫されているか	対象のお子さんの実態やその日の状況に応じて工夫している	10	2	1			
	⑯ 支援開始前には職員間で適宜打ち合わせをし、支援の内容や役割分担について確認している	毎日、打ち合わせを行っている						
	⑰ 支援終了後には、職員間で適宜打ち合わせをし、支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	毎日、支援の振り返りも行っている						
	⑱ 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日、日誌を記録している						
	⑲ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	半期に一度、モニタリングを行っている						
⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	可能な限り参画している							

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価					改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	13人/20人（回収率65.0%）	
保護者との連携	㉑ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	広島県東部幼児通園療育機関協議会や福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会、福山地域児童発達支援事業連絡協議会に参加し連携している						
	㉒ （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	広島県東部幼児通園療育機関協議会や福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会、福山地域児童発達支援事業連絡協議会に参加し連携している						
	㉓ （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	緊急時診ていただけるよう、当園の小児科医と各主治医が連絡体制を整えている						
	㉔ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	見学に来てもらったり、電話等で連携をとっている						
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	学校見学に行ったり、電話等で連絡をとっている						
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	広島県東部幼児通園療育機関協議会や福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会、福山地域児童発達支援事業連絡協議会に参加し連携している						

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価					改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	13人/20人（回収率65.0%）	
保護者との連携	⑳ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	現時点では行っていない	1	2	6	4	・感染対策のため仕方ないと思います。	・感染症が落ち着いたら保護者の方と相談しながら、検討していく。
	㉑ 自立支援協議会等へ積極的に参加している	可能な限り参加している						
	㉒ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	日頃からこどもさんの状況を保護者と伝えあうようにしている						
	㉓ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）の支援を行っている	ペアレントトレーニングは年度末に募集をして参加していただいている	6	3	1	3	・もっと、親の行動を良いことも改善することも評価してほしい。	・引き続きペアレントトレーニングの案内を行う。また、保護者の思いに寄り添えるようにコミュニケーションを大切にする。
	㉔ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	入園時説明し、掲示板にも掲示している。聞き逃したり忘れていたりした方には、その都度お話ししている						
	㉕ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援の同意を得ている	アセスメントの面談時は、いつも児童発達支援計画を示しながら行い、保護者から同意を得ている	13					
	㉖ 日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができてきているか	新型コロナウイルス感染症対応のためおやつの時や昼食時のお話をひかえていたりするせいもあり、話す機会が減ったかもしれない	10	2	1		・職員の人数が減ったこともあり、あまり話す機会がない。	・日ごろから、保護者の方とのコミュニケーションを大切にすることをスタッフ間で確認し、心がける。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価					改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	13人/20人（回収率65.0%）	
保護者との連携	③④ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	定期ではないが必要時と個別支援計画の面談時行っている	8	2		3		
	③⑤ 保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	行事がなくなったりして保護者の方に集まっていただけの機会がなくなっている。	1	5	1	6	・感染対策のため仕方ない。	・保護者会の役員さんとも相談して、活動できる形態を考えていく。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	誠意をもって対応する努力はしている。	12	1				
	③⑦ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	そのように努力している	12	1				
	③⑧ 定期的に、会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価結果を子どもや保護者に対して発信しているか	行事予定や活動予定表、お知らせ等を掲載したおたよりを毎月発行している自己評価結果をホームページで公表している	7	2		4		
	③⑨ 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	個人情報が出れないように気をつけている	11	1		1		
	④⑩ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	意思の疎通や情報伝達のための配慮を心掛けている						
	④⑪ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた運営を図っている	新型コロナウイルス感染症が流行し始めてからは地域の方に参加いただく行事はしていない						

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価					改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	13人/20人（回収率65.0%）	
非常時等の対応	④② 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか	医療型児童発達支援センターの非常時のマニュアルを策定した	12		1			
	④③ 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練が行われているか	毎月、火災に対する訓練をしている。年1回は地震・津波に対する訓練を行っている	11	1	1			
	④④ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	フェイスシートに記入してもらったり、母子手帳を見せてもらったり、面談等で確認している						
	④⑤ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	対応している						
	④⑥ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	毎月、医療安全管理委員会に提出されたインシデント報告書とヒヤリハット報告書を全員に回覧して周知している						
	④⑦ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止研修は職員全員が受けている						
	④⑧ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	保護者が同伴なので、必要と思われるときは保護者に聞きながら行っている 個別支援計画書にの記載し同意をえている						

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価				改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	
満足度	④⑨ 子どもは通所を楽しみにしているか		10			3	
	⑤⑩ 事業所の支援に満足しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室が変わり、保護者と相談員が顔を合わせる機会が減った ・リハビリスタッフは1名欠員となっている。また、職員の異動などにより慣れたスタッフが減った 	9	4		<ul style="list-style-type: none"> ・もっと相談員との関りを持ちたい。 ・通園には満足ですが、訓練には満足していません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通園スタッフは保護者のご要望を確認し、相談員に相談できる体制を作る。 ・リハビリスタッフの職員募集を行い欠員を解消するとともにいただいたご意見をスタッフ間で共有しリハビリ内容を検討する。